

平成28年度 学校評価総括表 伊丹市立天王寺川中学校

教育目標		夢と誇りのある生徒の育成 ～授業・行事・部活動の充実～						
重点目標		①朝読書を徹底するなど読書に積極的に取り組ませる。②あいさつを定着させ、規則正しい生活習慣の確立を図る。③部活動を活性化し、体力・気力の向上を図る。④学校便り等を充実することにより、天中の教育を積極的に説明する。⑤PTA主催の活動に積極的に参加することにより、PTAとの連携を密にする。						
項目	重点項目	具体的施策	達成目標	自己評価	成果と課題	改善策	学校関係者評価	
学力の向上	基礎・基本の徹底と、授業改善	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎的、基本的な知識・技能を習得する。 ・授業力の向上と授業の改善をめざした校内研修会を実施する。 ・週末課題を習慣化させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・終礼学習・放課後学習・土曜スクールを行い基礎基本の定着を図る。 ・公開授業を行い、授業評価等をもとにわかりやすい授業を目指す。 ・ICT機器を活用したわかりやすい授業に取り組む。 ・課題の点検を確実にここない週末課題の習慣化を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・土曜スクールの参加人数を平均50人以上にする。 ・授業はわかりやすく楽しいと感じる生徒の割合を75%以上にする。 ・ICT機器の使用回数を月に100回以上にする。 ・家庭学習をする習慣がある生徒の割合を75%以上を目指す。 	C	<ul style="list-style-type: none"> ・土曜スクールの人数を平均50人以上にする。(本年は平均30.9人であった) ・放課後学習については参加している生徒については一定の成果があがった(放課後に学校で勉強する習慣がついた)。しかし、本当に学力をつける必要がある層はなかなか来ない。 ・「授業はわかりやすく楽しい」と感じる生徒の割合は目標を達成したが、「わかったつもり」で終わってしまっている生徒もいる。 ・ICTの利用回数は目標を大きく上回った。 ・家庭学習をする習慣がある子は67.6%にとどまった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・部活動に所属している生徒が土曜スクールに参加しやすい部活動の環境作りが必要。 ・学校ぐるみで放課後学習の仕組みをつくる必要有。テスト前以外にも日を決めてNO部活デーを設定し、その日を学習会とする、など。 ・公開授業のしくみを変えて、参観しやすい環境を作る(1週間丸々どの授業も公開授業にする、など)。 ・校外向けの公開授業でなければ指導案を略案化する、など。 ・ICTの数を増やすなど、環境整備が必要。 ・やりとり帳の記入状況を週1回だけでも見てもらうなど、家庭協力をお願いする。 また、短時間(5分程度)でできる課題を設定する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・B評価でよい。 ・土曜スクール等の学習に本当に学力を付ける必要のある層が来るような工夫が必要。一方で、土曜スクール等にたよらない学力向上の取り組みも必要。 ・平日にノー部活デーを一律に設定し、学力向上の取り組みを行ってはどうか。 ・参加人数や回数にこだわりすぎている。そのことよりもこれからは、質の向上を目指すべきである。
	学習規律の確立	<ul style="list-style-type: none"> ・チャイム席を徹底する。 ・学習環境の整備を進める。 ・よく聴く姿勢を育む。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習委員会を中心にチャイム席の徹底を図る。 ・清掃の徹底を美化委員会を中心に呼びかける。 ・話を目と耳と心で聴けるように呼びかける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・チャイム席を守れている割合を90%以上にする。(A評価は50%以上にする。) ・「学校や教室が学習や生活の場として整っている」の割合を75%以上にする。 ・「人の話を聴く姿勢が出来ている」割合を85%以上にする。(A評価は40%以上にする) 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・委員会が主導してグランプリなどを行うことによって自治ができるようになった。 ・ユニバーサルデザイン化への取り組みが功を奏して、教師1人1人の環境整備への意識が高くなってきている。 ・授業の受け方などの掲示物が充実してきた。 ・決められた期間に高い意識が集中してしまい、それ以外の時にできていないことがある。 ・学年間に環境整備への意識の温度差が見られる。 ・聴く姿勢は目標値を達成しているが、AよりもBの方が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・グランプリ終了後にも委員会主導で呼びかけが出来るようにしていく。 ・視覚的な呼びかけは増えているので、次は各授業ごとに教科担任が始業時に呼びかけをしていく。 ・他学年の教室や掲示板を見に行く機会を設ける。 ・ロッカーのサイズは検討して欲しい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ユニバーサルデザインを導入した取り組みは評価できる。
	読書活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・朝読書を徹底させることで、学習に落ち着いて取り組むとともに、語彙力の獲得を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・質の高い読書を目指すために、国語科と図書委員と読書指導員の連携を図る。 ・R1グランプリで表彰することで読書により前向きに取り組ませる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・月に平均2冊以上読書する。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・前年に続き、読書冊数が上昇した。目標としていた平均2冊以上を毎月達成することができた。 ・朝読書にも意欲的に取り組むことができていく。 ・図書室を利用する生徒が少ないことが課題。 	<ul style="list-style-type: none"> ・全ての教科で図書室を利用する機会を増やす。 ・貸出冊数の上限を2冊から3冊に増やす。 ・開館時間を確保する。 ・質の高い読書を目指し、学校図書館司書との連携をすすめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・冊数にこだわりすぎである。読書の内容や質の向上に取り組むべきである。 ・ことば蔵との連携を模索してほしい。学校の授業として訪れる、ことば蔵の蔵書を学校の図書室から借りることができる等。
豊かな心・健やかな体	生徒指導	<ul style="list-style-type: none"> ・組織的な生徒指導に取り組む。 ・問題行動の予防に努める。 ・いじめ問題への対応力の向上に取り組む。 ・不登校の予防に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校全体で、共通理解事項を全職員に周知徹底する。 ・地域のパトロール回数を増やす。 ・年に2回、教育相談週間をもうけ実態把握を行う。 ・充実感のある行事を行う。 ・Q-Uアンケートの結果を活用し、学級運営に活かす。 ・連絡なしに登校していない生徒はすぐに連絡し、様子を確認する。 ・職員間で連携を取り、不登校に複数で対応する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域のパトロールを月1回は行う。 ・「学校へ行くのが楽しい」「学校行事は楽しい」という生徒の割合を90%以上にする。 ・不登校生の割合を全体の2%以下にする。 	C	<ul style="list-style-type: none"> ・年間を通して計画的にパトロールを行うことができた。 ・3学期に独自のいじめアンケートを実施し、生徒の実態把握に努めた。 ・クラス編成の時間を多くとるなどし、情報共有に努めた。 ・年度初め・終わり、衣替えの時期に共通理解をはかった。 ・不登校生2%以下が達成できず。 ・「学校へ行くのが楽しい」90%達成できず。 ・「行事が楽しい」90%達成したが、1.4%下がった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・不登校生への初期対応の徹底(保護者との関係作りを密に行っておく) ・QUの結果を学級運営に活かす(学年の教師で共通理解する) ・左記2項目(「学校へ行くのが楽しい」「行事が楽しい」)は生徒指導に限った話ではなく、学校生活全体として考えるべき。 	<ul style="list-style-type: none"> ・B評価でよい。 ・組織的な生徒指導体制が整備されており、評価できる。

道徳教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・「心の教育」を推進する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・道徳を中心に教育活動全般で相手を思いやる心を育む。 ・「朝のあいさつ運動」を実施してあいさつの定着を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「自分を大切にすることや、ほかの人への思いやりについて教えてもらっている」の割合を80%以上にする。 ・「あいさつをきちんとできている」生徒の割合を80%以上にする(A評価で50%以上にする)。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・学校全体としては各項目90%以上となり、目標以上の数値になっている。ただし学年により格差がある。 ・目標の数値をかなり超えているが、自主的に挨拶できない生徒もいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・挨拶を含め、社会で通用するマナーのあり方を意識させるよう指導していく。 ・普段から教員が率先して挨拶をし、挨拶をする習慣をつけさせる。 ・各学年の生徒の実態に合わせて道徳の時間に自分を大切にすることや、ほかの人への思いやりについての題材を重点的に扱う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の笑顔や表情も明るく、外来者に対しても気持ちのよい挨拶や対応ができており、心の教育の浸透がうかがい知れる。 ・行事等、取り組み姿勢が感動的であり、豊かな心の育ちを感じる。
健やかな体の育成	<ul style="list-style-type: none"> ・規則正しい生活習慣の獲得を図る。 ・部活動の活性化を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・早寝・早起き・朝ごはんを生徒・家庭に呼びかける。 ・教師の専門性を活かしたり、外部コーチによる指導を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・規則正しい生活習慣を80%以上の生徒ができるようにする。 ・「部活動が充実している」と感じる生徒の割合を85%以上にする。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・呼びかけにより規則正しい生活習慣が身につく生徒が増えた。 ・「部活動が充実している」と感じる生徒の割合は全体の90%近くある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒だけでなく、「子どもが規則正しい生活ができている」と感じている保護者も増えていることから、呼びかけを継続して行う。 ・現状維持できるように、生徒の成長過程に合った課題を与え、充実した部活動にする。 ・チームではなく個別の目標を設定することによって「充実していない」と感じる生徒を減らしていく。 	引き続き取り組みを推進する。
開かれ信頼される学校園	<ul style="list-style-type: none"> ・積極的に学校情報を発信する。 ・学校評価の充実を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校ホームページの積極的な更新をする。 ・学校便りを月4回以上発行し、ホームページ上でも閲覧できるようにする。 ・学校評価アンケートをホームページで公開する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校ホームページを月10回以上更新する。 ・学校便りを月4回以上更新し、ホームページ上で公開する。 ・学校評価結果を学校運営に反映しやすくするため、年2回アンケートを実施する。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・月4回以上の学校だよりの発行はできていたが、ホームページに公開できていなかった。 ・学校評価アンケートを実施、公開することができていた。 ・HP更新回数が昨年度と同程度にとどまり、目標が達成できなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学年通信をHP上で公開できるようにする。 ・HP更新までの手順を簡潔にして、多くの人からの更新を促す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・天王寺川中学校について、問題行動が多発していた頃のイメージが払拭できておらず、他の地域等の方から驚くような質問をされることがある。行事等、様々な場面で頑張りを発信・アピールすべき。
資質向上の意識改革と	<ul style="list-style-type: none"> ・わかる授業を追求する。 ・地域・保護者との連携を図る。 ・校内外で研修に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・公開授業等を通してわかりやすい授業を追求する。 ・PTAの主催行事・地域の行事等に積極的に参加する。 ・校内外の研修で資質や指導力の向上に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・1年に1回以上の公開授業を行う。(期間中に必ず1回は参観) ・校内外の研修に平均10回以上参加する。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・公開授業はできているが、参観者は少ない。 ・ふれあいのつどい、葉刈り活動には多数の教師が参加している。 ・研修会参加の目標は達成しているが、広める機会の設定ができていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・公開授業以外で学期に1度はどの教科でもいのでお互いに参観し合い、意見交換を行う。 ・地域行事について意見交換をする。 ・研究推進で検討し、職員会後に報告の場を設定する。 ・天中ルールブックを校内研修会で活用する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・PTA奉仕活動・葉狩りやふれあいの集い等、地域・保護者との積極的な連携は素晴らしい。 ・地域が学校を見守っており、地域が学校を見る目も育ってきているように感じる。 ・教員が教えることに終始しすぎである。生徒に考えさせる・待つ・自力でさせるような工夫が必要である。

学校関係者評価総括

概ね、学校の取り組みについて、評価できる。形や数字を目標値に掲げ評価を行っているが、今後は教育の本質であるべき質の向上に期待したい。そのためには、教える側の資質向上は必至である。授業力向上に向け努力願いたい。地域や保護者との連携は、引き続き進める必要があるが、コミュニティスクールを立ち上げる中で参画・協働へとよい方向に展開することを期待する。

次年度に向けた重点的な改善点

- ①道徳教育、生徒指導の充実と不登校未然防止の取り組み強化。
- ②自ら進んで学ぶ生徒を育むための授業改善。
- ③コミュニティスクール実施による地域との連携・参画・協働の推進。

自己評価の基準 A: 目標を上回った B: 目標どおりに達成できた C: 目標をやや下回った D: 目標を大きく下回った